

中学生テメキュラ市 訪問記④(最終回)

町内3校の中学生7人が、7月27日から8月5日までの10日間、米国テメキュラ市を訪問しホームステイをしました。これまで3回にわたり参加者の感想の一部を紹介してきましたが、今回が最終回です。

一生忘れられない思い出に
大山中3年 畑中 悦ゆえ

この夏休みに、私は日本とアメリカの国際交流学生として、カリフォルニア州に十日間行きました。たったの十日間と思うかもしれませんが、私にとつて、かもしれないが、私にとつて、どの日も一生忘れられない大切な思い出になりました。

手紙を一回だけ出したことのあるホストファミリーに出会うことは、少し緊張はしていませんが、わくわくしていました。けれど、出会った瞬間に、ホストファミリーの笑顔で、その緊張も完全に消えてしまいました。車に乗り、家に向かう途中で、好きな色や、好きな物をたずねられたりしました。単語が

わからないときは、ゼスチャーでがんばって相手に自分が思っていることを伝えようとしていました。それはとても効果的で、相手も大体わかったようでした。これが一番うれしかったです。なにより、その時の伝えようとする気持ちは今でも忘れられません。英語がうまくないことは問題ではなく、伝えようとする気持ちが一番大切なことだとも思っています。

二日目になると、私とホストファミリーのあかりとは、ずいぶん仲良しになりました。野球観戦では、松井秀喜本人に出会えました。ちよつと遠かったけど、素晴らしかったです。三日目はすごい出来事がありました。それは水泳です。夏の



▲畑中さん(右から2番目)とホストファミリー

水泳はとても気持ちの良いものですが、私の問題は泳げないということでした。何度も泳げるようになりたいと思いましたが、何回も失敗したのであきらめていました。プールに入ってたただ歩き回っていた私に、あかりとまことはずっとついていてくれて、すごく感動しました。歩くだけでは、あかりたちもつまらないと思つたので、泳ぎ方を教えてもらおうと頼みました。どんどんと盛り上がりつつあって楽しくなりました。ある時、私がもう一回試してみたら、何と泳げたんです。半信半疑でしたが、どんだんうまくなつていききました。なんて不思議なことでしょう。今では、周りに信じてくれる人がいて、努力すれば、何でも不可能を可能に変えることができると思っています。

今年、米国カリフォルニア州テメキュラ市への訪問は、事業の見直しにより、町内3中学校から参加者が集まる最初の年になりました。日程を調整しながら、夜の準備会で研修を積み重ねてきました。準備会での練習では、多くの関係者や過去に参加した現在の高校生の支援も受け大変感謝しています。

交流事業に参加して

中山中教諭 石塚信男

今年、米国カリフォルニア州テメキュラ市への訪問は、事業の見直しにより、町内3中学校から参加者が集まる最初の年になりました。日程を調整しながら、夜の準備会で研修を積み重ねてきました。準備会での練習では、多くの関係者や過去に参加した現在の高校生の支援も受け大変感謝しています。



▲マルガリータ・ミドルスクールでのハロウィンパーティー

交流も盛んであること)に裏付けされており、まるで根がしっかり張った樹木のような土台の強い事業だと感じました。

テメキュラ市の現在建設中の市役所には、「だいせん」と名付けた部屋を設ける予定があることや、テメキュラ市の姉妹都市委員会が中心となり、ホストファミリーへの事前研修、「子ども祭り」の企画運営など、この交流事業が市のまちづくりにも大きく影響するほどの大事業であるとの説明を受けたときは、これまでの長い年月をかけて培われてきたテメキュラ市の信頼関係の深さを感じました。

3中学校の生徒は、テメキュラ市を訪問する「大山町の代表として」という言葉を胸に、大山町紹介プレゼンテーション、披露演技などの練習を重ねました。プレゼンテーションの準備・練習、ソーラン節の練習をとおして互いに知り合い、また、現地アメリカでの十日間の生活をともに過ごす中で、一体感や連帯感が高まったように思えます。

今回参加して感じたことに、テメキュラ市との交流事業は、互いの組織力(特に大人同士)

テメキュラ市の方々は大変友好的で、滞在中、親身になってお世話をしていただき、歓待の心を感じました。また、パーティーの場面では、海外からの客である生徒たちが食べ物を取るまで、テメキュラ市の子どもたちは自分たちの番がくるのをじつと待っていました。人をもてなす礼儀作法がしっかりしているのを目の当たりにし、テメキュラ市の方々の心の在りようの素晴らしさも感じる事ができました。